

第1回徳山ダム建設事業コスト縮減委員会 審議内容メモ

日時：平成16年6月15日（火） 14：00～16：00  
場所：独立行政法人水資源機構中部支社 4階会議室  
出席者：松尾直規委員長、入江洋樹委員、高須修二委員、八嶋 厚委員  
加藤明司顧問、小柳 洽顧問  
事務局（水資源機構職員28名）

配布資料

- ・第1回徳山ダム建設事業コスト縮減委員会 議事次第
- ・第1回徳山ダム建設事業コスト縮減委員会 出席者名簿
- ・徳山ダム建設事業コスト縮減委員会設立趣意書
- ・徳山ダム建設事業コスト縮減委員会規約（案）
- ・事業の進捗状況と今後の事業工程 (資料 - 1)
- ・変更事業費算定にあたってのコスト縮減策の検討経緯 (資料 - 2)
- ・コスト縮減策の検討方針及びフォローアップの進め方 (資料 - 3)

審議内容

1. 委員会の設置
  - ・委員会設立趣意書を確認するとともに、委員会規約を定めた。
2. 事業の進捗状況と今後の事業工程
  - ・徳山ダム建設事業の進捗状況と平成16年度以降の事業工程について説明があった。
3. 変更事業費算定にあたってのコスト縮減策の検討経緯
  - ・水資源機構が徳山ダム建設事業の変更事業費3,500億円を算定するにあたってのコスト縮減策の検討経緯とその内容について説明があった。
4. コスト縮減策の検討方針及びフォローアップの進め方
  - ・変更事業費3,500億円の算定にあたって縮減を図ることとした、今後の建設費について5%の縮減努力（48億円）、独立行政法人化を踏まえた経営努力による縮減（30億円）に向けたコスト縮減策の検討を行うとともに、さらなるコスト縮減策について検討を行うことが確認された。  
この委員会におけるコスト縮減策の検討にあたっては、検討対象及び縮減目標を早急に明らかにしていくことが確認された。  
また、委員会としてのコスト縮減策については、当面、平成16年度上半期を目処に取りまとめていくことが確認された。
  - ・コスト縮減策のフォローアップとして、平成16年度下半期以降、検討したコスト縮減策が実際の工事、契約等に適切に反映され、想定したコスト縮減効果が得られているか検証を行っていくことが確認された。

なお、フォローアップの過程においても、継続してコスト縮減策の検討を行っていくことが確認された。

5 . ワーキンググループにおけるコスト縮減策の検討状況

- ・ダム本体、管理設備、付替道路の各ワーキンググループから、4月下旬以降行ってきた、堤体材料の有効利用、管理設備の簡素化、施工設備の見直し等のコスト縮減策検討の状況が報告された。
- ・各ワーキンググループにおいて、引き続き技術的な検討を行い、当面、平成16年度上半期を目処にコスト縮減策として取りまとめ、次回の委員会（平成16年10月頃開催予定）において審議を行うことが確認された。

（以上）